

ワカムラサキ花 ランキヤウ ○筑前根名
戸中略

圃ニ栽ニ葉ハ葱ヨリ狹細長サ一二尺、三稜ニシテ内空シ臭氣アリ、一根ニ多ク叢生ス、秋數莖ヲ抽テ、高サ一二尺、頂ニ小花簇ツ開ク、韭ノ花ニ似テ大ニ、紫色觀ツベシ、後實ヲ結ズ、亦韭子ノ如シ、根ハ山蒜ハビル根ニ似タリ、旁ニ子根ヲ多ク生ジ繁殖ス、○申一種ヤマラツキヤウハ、下濕ノ地ニ自生ス、薙葉ヨリ細ク厚クシテ色深シ、其花深紫色ニシテ美シ、是山薙ナリ、

薙栽培

〔農業全書四〕薙ハサキエビナラコトモ云

薙是を火葱とも云、味少辛く、さのみ臭からず、功能ある物にて、人を補ひ温め、又は學問する人つねに是を食すれば、神に通じ魂魄を安する物なり、うゆる地、白砂の軟かなる肥地を、二三遍も耕しこなし、二三月分て一科に四五本づゝ、うゆべし、さいく、中うちし、根の廻りをかきさらへ、畦中をきれいにしてをくべし、濕氣のつよきをにくむ物なり、是もわけぎのごとく分てをくべし、根を鹽醬に漬置て用べし、又煮て食し、或糟に漬醋に浸、又少ゆびき、醋と醤油に漬たるは久しく損せず、味よき物なり、又は醋味噌にて食す、牙音ありて氣味おもしろき物なり、たぬを取をく事も、春葱と同じ、時珍が云、八月に根をうへ、正月にわかつて肥地うへ、五月に根をとるべし、

〔大和本草附錄〕薙ハサキ

ハ六月土用ニホリ出シ、守ヲワカチテ一目ホシ、其翌日土ニ一根ヅ、別ニアサクウフベシ、一處ニ二根付合テウユベカラズ、クサリヤスシ、ホリ出シテ、久クホヌベカラズ、又溼ニアタレバクサル、ワラヲイム、又ウヘ村ニシテ其マ、ヲクハアシ、葉生ジテ三四寸ニナラバ、小便ヲカケテヨクフミ付ベシ、ウグロモチナドウゴモテルハ、コトニヨクフミテカタクス、如此スレハ根大ナリ、地和ナラバ時々フミカタクスベシ、肥ヲシバカケテヨシ、フミ付ザレバ、根小ニシテ長シ、フミ付テ肥セバ根丸ク大ナリ、